

日本国特許庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

0915971150  
UN/fu

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

1999年6月22日

出願番号

Application Number:

平成11年特許願第176118号

出願人

Applicant(s):

キヤノン株式会社

RECEIVED  
NOV - 3 2000  
TECH CENTER 2700

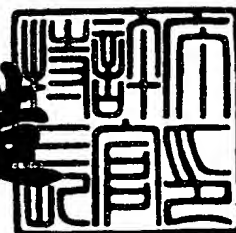
CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

RECEIVED  
OCT 24 2000  
TECH CENTER 2700

2000年7月14日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 4019005

【提出日】 平成11年 6月22日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 ファクシミリ装置及び該ファクシミリ装置の通信制御方法

【請求項の数】 8

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社  
社内

【氏名】 吉田 武弘

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社  
社内

【氏名】 吉野 元章

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【代理人】

【識別番号】 100081880

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡部 敏彦

【電話番号】 03(3580)8464

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007065

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703713

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ファクシミリ装置及び該ファクシミリ装置の通信制御方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ファクシミリ装置のグループ間のリング型同報送信を実行する同報送信手段を備えるファクシミリ装置において、リング型同報送信が指定されたか否かを判別する判別手段を備え、前記同報送信手段は、リング型同報送信が指定されたときは、該受信した情報をメモリ受信すると共に、当該メモリ受信した情報を実際にプリントした後次宛先へ送信することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】 前記同報送信手段は、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信することを特徴とする請求項 1 記載のファクシミリ装置。

【請求項 3】 前記同報送信手段は、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のファクシミリ装置。

【請求項 4】 前記同報送信手段が、オペレータからの指定により、前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信するか、前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付するかを選択する選択手段を備えることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のファクシミリ装置。

【請求項 5】 ファクシミリ装置のグループ間のリング型同報送信を実行する同報送信工程を有するファクシミリ装置の通信制御方法において、リング型同報送信が指定されたか否かを判別する判別工程を有し、前記同報送信工程において、リング型同報送信が指定されたときは、該受信した情報をメモリ受すると共に、当該メモリ受信した情報を実際にプリントした後次宛先へ送信することを特徴とするファクシミリ装置の通信制御方法。

【請求項 6】 前記同報送信工程において、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信することを特徴とする請求項 5 記載のファクシミリ装置の通信制御方法。

【請求項 7】 前記同報送信工程において、オペレータからの指定により前

記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付することを特徴とする請求項 5 又は 6 記載のファクシミリ装置の通信制御方法。

【請求項 8】 前記同報送信工程において、オペレータからの指定により、前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信するか、前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付するかを選択する選択手段を備えることを特徴とする請求項 5 乃至 7 のいずれか 1 項に記載のファクシミリ装置の通信制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ファクシミリ装置及び該ファクシミリ装置の通信制御方法、特に、1 つの送信情報を複数の宛先に送信することができるファクシミリ装置及び該ファクシミリ装置の通信制御方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来のファクシミリ装置は、1 つの情報を複数の宛先に送信する場合、同報送信、具体的には、送信する宛先へ順次ファクシミリ通信を実行することにより同一情報を複数の宛先へ送信する送信方法によるのが一般的であるが、この送信方法は、同報送信を実行する場合すべての宛先に対して 1 台のファクシミリ装置から送信を行うので、ファクシミリ装置間の通信コストの配分に偏りが生じ、且つ同報送信実行中に他のファクシミリ装置からの受信が不可能となるという問題点を有する。この問題点を解決する対策として、例えば、ファクシミリ装置 FAX A から FAX B、同 FAX B から FAX C、同 FAX C から FAX D、同 FAX D から FAX A と順次送付するリング型同報送信方法が考えられている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、この種のリング型同報送信方法では、リング型同報送信に係る情報が送信されたファクシミリ装置のオペレータが該情報を見たか否かが不明であるという欠点があった。特に、町内会サークル等の活動においては、すべての宛先のユーザがそのファクシミリ装置とみているか否かを確認できることは重要

である。

【0004】

本発明の目的は、リング型同報送信に係る情報が送信されたファクシミリ装置のオペレータに該情報を確実に見せることができるファクシミリ装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、請求項1記載のファクシミリ装置は、ファクシミリ装置のグループ間のリング型同報送信を実行する同報送信手段を備えるファクシミリ装置において、リング型同報送信が指定されたか否かを判別する判別手段を備え、前記同報送信手段は、リング型同報送信が指定されたときは、該受信した情報をメモリ受信すると共に、当該メモリした情報を実際にプリントした後次宛先へ送信することを特徴とする。

【0006】

請求項2記載のファクシミリ装置は、請求項1記載のファクシミリ装置において、前記同報送信手段は、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信することを特徴とする。

【0007】

請求項3記載のファクシミリ装置は、請求項1又は2記載のファクシミリ装置において、前記同報送信手段は、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付することを特徴とする。

【0008】

請求項4記載のファクシミリ装置は、請求項1乃至3のいずれか1項に記載のファクシミリ装置において、前記同報送信手段が、オペレータからの指定により、前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信するか、前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付するかを選択する選択手段を備えることを特徴とする。

【0009】

上記目的を達成するために、請求項5のファクシミリ装置の通信制御方法は、

ファクシミリ装置のグループ間のリング型同報送信を実行する同報送信工程を有するファクシミリ装置の通信制御方法において、リング型同報送信が指定されたか否かを判別する判別工程を有し、前記同報送信工程において、リング型同報送信が指定されたときは、該受信した情報をメモリ受信すると共に、当該メモリ受信した情報を実際にプリントした後次宛先へ送信することを特徴とする。

【0010】

請求項6のファクシミリ装置の通信制御方法は、請求項5のファクシミリ装置の通信制御方法において、前記同報送信工程において、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信することを特徴とする。

【0011】

請求項7のファクシミリ装置の通信制御方法は、請求項5又は6のファクシミリ装置の通信制御方法において、前記同報送信工程において、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付することを特徴とする。

【0012】

請求項8のファクシミリ装置の通信制御方法は、請求項5乃至7のいずれか1項に記載のファクシミリ装置の通信制御方法において、前記同報送信工程において、オペレータからの指定により、前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信するか、前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付するかを選択する選択手段を備えることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0014】

図1は、本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置の全体構成を示す。

【0015】

本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置は、図1に示すように、電話回線2aに接続された網制御装置（以下「NCU」という。）2を備える。

【0016】

N C U 2 は、電話交換網をデータ通信等に使用するために、その回線の端末に接続され、電話交換網の接続制御、データ通信路への切り換え、ループの保持を行う。また、N C U 2 は、バス 2 6 からの制御により信号線 2 b を介して電話回線 2 a を電話機 4 側に接続（C M L オフ）したり、信号線 2 c を介して電話回線 2 a をファクシミリ装置側に接続（C M L オン）する。なお、通常は、電話回線 2 a は電話機 4 側に接続されている。

【 0 0 1 7 】

ハイブリッド回路 6 は、電話回線 2 a を介して送信される送信系からの送信信号と、電話回線 2 a を介して受信される受信系への受信信号とを分離する。また、ハイブリッド回路 6 は、加算回路 1 2 からの送信信号を N C U 2 経由で電話回線 2 a に送出し、相手機側からの信号を N C U 2 経由で受け取り、信号線 6 a を介して変復調器 8 に送信する。

【 0 0 1 8 】

変復調器 8 は、その変調処理及び復調処理を I T U - T 勧告 V . 8 , V . 2 1 , V . 2 7 T e r , V . 2 9 , V . 1 7 , V . 3 4 に基づいて行い、バス 2 6 の制御により各伝送モードが指定される。変復調器 8 は、バス 2 6 からの送信信号を入力し、信号線 8 a を介して変調データを加算回路 1 2 に出力すると共に、信号線 6 a を介してハイブリッド回路 6 からの受信信号を入力して復調データをバス 2 6 に出力する。

【 0 0 1 9 】

発呼回路 1 0 は、バス 2 6 からの信号により電話番号情報を入力し、信号線 1 0 a を介して加算回路 1 2 に D T M F の選択信号を出力する。

【 0 0 2 0 】

加算回路 1 2 は、信号線 8 a を介する変復調器 8 からの情報と信号線 1 0 a を介する発呼回路 1 0 からの情報とを入力し、加算結果を信号線 1 2 a を介してハイブリッド回路 6 に出力する。

【 0 0 2 1 】

読取回路 1 4 は、C C D （電荷結合素子）等の撮像素子と光学系から構成され、送信原稿から主走査方向の 1 ライン分の画像を順次に読み取り、この読み取ら



れた画像データをバス 2 6 に出力すると共に、記録回路 1 6 は、バス 2 6 に出力されている情報を 1 ライン毎に順次記録する。

【 0 0 2 2 】

メモリ 1 8 は、ワーク用のメモリ（RAM）であり、読み取りデータの生情報、又は符号化した情報を格納したり、受信情報、複合化した情報等をバス 2 6 を介して格納する。

【 0 0 2 3 】

また、メモリ 1 8 は、自機の電話番号登録メモリ、メモリボックスに対応したサブアドレス及び通信仕様を登録するメモリを有する。このサブアドレス信号通信仕様の登録の一例として、図 2 に、リング型同報送信の一例、例えば各ファクシミリ装置 FAX A、同 FAX B、同 FAX C、同 FAX D におけるメモリボックスに対応したものが図示されている。

【 0 0 2 4 】

さらに、メモリ 1 8 のメモリ構成としては、図 3 に示されるように、アドレス 0 に、自機の電話番号が登録され、アドレス 1 に、メモリボックスに対応したサブアドレス及び通信仕様が登録され、アドレス 2 に、次宛先へのリング型同報送信方法が登録される。例えば、FAX C は、自機の電話番号として 0 3 - 3 1 1 1 - 2 2 2 2 が登録されている。

【 0 0 2 5 】

ここでは、図 2 に示されるリング型同報送信において、例えば、ファクシミリ装置 FAX B に対して、メモリボックス 0 1 に対応したサブアドレスとして 1 2 3 4、同通信仕様として次宛先 FAX C へのリング型同報送信を登録する。

【 0 0 2 6 】

操作部 2 0 は、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、テンキー、#キー、スタートキー、セットキー、ストップキー、自機電話番号登録キー、メモリボックスの仕様登録キー、その他のファンクションキー、さらには表示部を有し、キー情報は、バス 2 6 に出力される。また、操作部 2 0 は、バス 2 6 に出力された情報を入力し、表示する。

【 0 0 2 7 】

CPU（中央処理装置）22は、ファクシミリ装置の全体制御、及び後述するファクシミリ伝送制御手順を実行する。この制御プログラムは、ROM24に格納される。

【0028】

図4～図9は、本発明の第1の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【0029】

本手順は、ファクシミリ装置FAXBを対象として説明するものであり、その説明は、他のファクシミリ装置FAXA、FAXC、及びFAXDにも適用される。

【0030】

まず、バス26を介してメモリ18をイニシャライズし（ステップS2）、バス26を介して操作部20の表示部をクリアし（ステップS4）、バス26を介してNCU2のCMLをオフして電話回線2aを電話機4側に接続する（ステップS6）。

【0031】

次いで、バス26を介して操作部20の情報を入力し、メモリ18のアドレス20に自機の電話番号の登録が選択されたか否かを判別し（ステップS8）、この判別の結果、自機の電話番号の登録が選択されたときは、バス26を介してメモリ18に自機の電話番号として、例えば、03-3111-2222を登録した（ステップS10）後ステップS12に進む一方、選択されていないときは、ステップS10をスキップしてステップS12に進む。

【0032】

ステップS12では、バス26を介して操作部20の情報を入力し、メモリボックスに対応したサブアドレス及び通信仕様登録が選択されたか否かを判別する。この判別の結果、メモリボックスに対応したサブアドレス及び通信仕様登録が選択されたときは、バス26を介してメモリ18のアドレス1に、サブアドレス及び通信仕様として、例えば、メモリボックス01に対応したサブアドレス信号として1234、同通信仕様として次宛先FAXCへのリング型同報送信を登録

した（ステップ S 1 4）後ステップ S 1 6に進む一方、選択されていないときは、ステップ S 1 4をスキップしてステップ S 1 6に進む。

【0 0 3 3】

ステップ S 1 6では、バス 2 6を介して操作部 2 0のリング型同報送信指定キーが押下されたか否かを判別する。この判別の結果、リング型同報送信指定キーが押下されたときは、バス 2 6を介してNCU 2のCMLをオンして電話回線 2 aをファクシミリ装置側に接続し（ステップ S 1 8）、バス 2 6を介して発呼回路 1 0を使用して次宛先 F A X Cへ発呼し（ステップ S 2 0）、前手順として、リング型同報送信スタート電話番号として、メモリ 1 8のアドレス 0に格納されている電話番号を送信し、また、アドレス信号として 1 2 3 4を送信し（ステップ S 2 2）、画信号の送信を行い（ステップ S 2 4）、次いで、後手順を行った（ステップ S 2 6）後、ステップ S 6に戻る。

【0 0 3 4】

ステップ S 1 6の判別の結果、リング型同報送信の指定キーが押下されていないときは、ステップ S 2 8に進み、バス 2 6を介して操作部 2 0のリング型同報送信継続キーが押下されたか否かを判別する。ステップ S 2 8の判別の結果、操作部 2 0のリング型同報送信継続キーが押下されたときは、ステップ S 3 0に進み、バス 2 6を介して操作部 2 0のリング型同報受信信あり表示部が表示されているか否かを判別する。ステップ S 3 0の判別の結果、操作部 2 0のリング型同報受信信あり表示部が表示されているときは、ステップ S 3 2に進み、サブアドレス 1 2 3 4で、メモリ受信した情報のプリントが終了しているか否かを判別する。ステップ S 3 2の判別の結果、メモリ受信した情報のプリントが終了しているときは、バス 2 6を介してNCU 2のCMLをオンして電話回線 2 aをファクシミリ装置側に接続し（ステップ S 3 4）、バス 2 6を介して発呼回路 1 0を使用して次宛先 F A X Cへ発呼し（ステップ S 3 6）、前手順として、リング型同報送信スタート電話番号として、メモリ 1 8のアドレス 0に格納されている電話番号を次宛先 F A X Cに転送すると共に、サブアドレス信号として 1 2 3 4を次宛先 F A X Cに転送し（ステップ S 3 8）、サブアドレス 1 2 3 4でメモリ受信した情報を次宛先 F A X Cに送信し（ステップ S 4 0）、次いで、後手順を行っ

た（ステップ S 4 2）後、バス 2 6 を介して N C U 2 の C M L をオフにして電話回線 2 a を電話機 4 側に接続し（ステップ S 4 4）、リング型同報受信あり表示部の表示をクリアして（ステップ S 4 6）、ステップ S 6 に戻る。

## 【 0 0 3 5 】

上記ステップ S 3 2 の判別の結果、メモリ受信した情報のプリントが終了していないときは、バス 2 6 を介して図示しない表示部に「リング型同報送信にてメモリ受信した情報はプリントアウト後でないで次宛先へ送信できません」と表示した（ステップ S 4 8）、ステップ S 6 に戻る。ステップ S 4 8 における表示は何らかのキー操作で消去する。

## 【 0 0 3 6 】

また、上記ステップ S 3 0 の判別の結果、リング型同報受信信あり表示部が表示していないときは、バス 2 6 を介して図示しない表示部に「未送信のリング型同報送信にてメモリ受信した情報はありません」と表示した（ステップ S 5 0）後、ステップ S 6 に戻る。ステップ S 5 0 における表示は何らかのキー操作で消去する。

## 【 0 0 3 7 】

ステップ S 2 8 の判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報送信継続キーが押下されていない時は、ステップ S 5 2 に進み、バス 2 6 を介して操作部 2 0 のリング型同報送信情報プリントキーが押下されたか否かを判別する。この判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報送信情報プリントキーが押下されたときは、ステップ S 5 4 に進み、バス 2 6 を介して操作部 2 0 のリング型同報受信あり表示部の表示があるか否かを判別する。この判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報受信あり表示部の表示ありのときは、サブアドレス 1 2 3 4 でメモリ受信した情報をプリントした（ステップ S 5 6）、ステップ S 6 に戻る一方、表示なしのときは、バス 2 6 を介して図示しない表示部に「プリントするリング型同報送信にてメモリ受信した情報はありません」と表示した（ステップ S 5 8）後、ステップ S 6 に戻る。

## 【 0 0 3 8 】

上記ステップ S 5 2 の判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報送信情報プリン

トキーが押下されないときは、ステップ S 6 0 に進み、ファクシミリ受信があるか否かを判別する。この判別の結果、ファクシミリ受信があるときは、バス 2 6 を介して N C U 2 の C M L をオンして電話回線 2 a をファクシミリ装置側に接続した（ステップ S 6 4）後、ステップ S 6 6 以降の所定の処理を実行する一方、ファクシミリ受信がないときは、その他の処理を実行した（ステップ S 6 2）後、ステップ S 6 に戻る。

【 0 0 3 9 】

ステップ S 6 6 以降の所定の処理は以下のように行われる。

【 0 0 4 0 】

まず、前処理として、サブアドレス信号の受信機能ありをファクシミリ相手機に通知し（ステップ S 6 6）、次いで、相手機からサブアドレス信号の受信があるか否かを判別する（ステップ S 3 6）。この判別の結果、サブアドレス信号の受信がないときは、画信号の受信／記録を行い（ステップ S 7 0）、後手順を実行した（ステップ S 7 2）後、ステップ S 6 に戻る。

【 0 0 4 1 】

ステップ S 6 8 の判別の結果、サブアドレス信号の受信があったときは、ステップ S 7 4 に進み、サブアドレス信号が 1 2 3 4 であるか否かを判別する。この判別の結果、サブアドレス信号が 1 2 3 4 でない場合は、サブアドレス信号に対応した受信処理の実行して（ステップ S 7 6）、ステップ S 6 に戻る一方、サブアドレス信号が 1 2 3 4 である場合は、画信号をメモリ受信し（ステップ S 7 8）、後手順を実行した（ステップ S 8 0）後、バス 2 6 を介して N C U 2 の C M L をオフして電話回線 2 a を電話機 4 側に接続し（ステップ S 8 2）、今、受信したリング型同報送信スタート電話番号が自機の電話番号に一致するか否かを判別する（ステップ S 8 4）。

【 0 0 4 2 】

ステップ S 8 4 の判別の結果、受信したリング型同報送信スタート電話番号が自機の電話番号に一致しないときは、バス 2 6 を介して操作部 2 0 のリング型同報送信あり表示部を表示して（ステップ S 8 6）、ステップ S 6 に戻る一方、一致するときは、バス 2 6 を介して操作部 2 0 のリング型同報送信完了表示部を表

示して（ステップS88）、ステップS6に戻る。ステップS88における表示は何らかのキー操作で消去する。

【0043】

本発明の実施の形態によれば、サブアドレス信号によりリング型同報送信が指定されたか否かを判別し（ステップS68及びS74）、受信時にリング型同報送信が指定されたときは（ステップS74でYES）、該受信した情報をメモリ受信する（ステップS78）と共に、当該メモリ受信した情報を実際にプリントした（ステップS32でYES）後次宛先へ転送する（ステップS38）ので、メモリ受信した情報のプリント後、即ち、ファクシミリ装置のオペレータがその情報を読んだ後でないと次宛先への送信が不可となり、リング型同報送信に係る情報が送信されたファクシミリ装置のオペレータに該情報を確実に見せることができる。

【0044】

図10及び図11は、本発明の第2の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【0045】

本第2の実施の形態は、メモリ受信した情報をオペレータからの指定により送信するか、メモリ受信した情報のプリント終了後自動的に次宛先へ送信するかを選択する点で、上記第1の実施の形態と異なり、この点以外は、上記第1の実施の形態と同じである。図10及び図11は上記相違点のみを示す。

【0046】

図10において、図4のステップS6の処理の後、バス26を介して操作部20の情報を入力し、次宛先へのリング型同報送信方法の登録が選択されたか否かを判別し（ステップS102）、選択されたときは、バス26を介してメモリ18のアドレス2に次宛先へのリング型同報送信方法がオペレータの選択によるか又はメモリ受信した情報のプリント後自動的に行うかを登録した後、図4のステップS8に進む一方、選択されていないときは、ステップS104をスキップして図4のステップS8に進む。これにより、メモリ受信した情報をオペレータからの指定により送信するか、メモリ受信した情報のプリント終了後自動的に送信

するかを選択することができる。

【0047】

また、図11において、図7のステップS56の処理の終了後、バス26を介してメモリ18のアドレス2の情報を入力し、メモリ受信した情報のプリント後の次宛先FAXCへの自動転送が選択されたか否かを判別し（ステップS110）、自動転送が選択されたときは、図5のステップS34～S46以降の処理により次宛先FAXCにメモリ受信した情報を自動的に送信する一方、自動転送が選択されていないときは、図4のステップS6に進む。

【0048】

【発明の効果】

以上詳細に説明したように、請求項1記載のファクシミリ装置及び請求項5記載の通信制御方法によれば、リング型同報送信が指定されか否かを判別し、リング型同報送信が指定されたときは、該受信した情報をメモリ受信すると共に、当該メモリ受信した情報を実際にプリントした後次宛先へ転送するので、メモリ受信した情報のプリント後、即ち、ファクシミリ装置のユーザがその情報を読んだ後でないと次宛先への送信が不可となり、リング型同報送信に係る情報が送信されたファクシミリ装置のオペレータに該情報を確実に見せることができる。

【0049】

請求項2記載のファクシミリ装置及び請求項6記載の通信制御方法によれば、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報を次宛先へ転送するので、メモリ受信した情報の次宛先への送信を手動操作とし、オペレータがメモリ受信した情報をプリントして読んだ後、オペレータの意思で次宛先への転送が可能になり、ユーザのファクシミリ情報を読んでいる可能性を増大させることができる。

【0050】

請求項3記載のファクシミリ装置及び請求項7記載の通信制御方法によれば、オペレータからの指定により前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付するので、メモリ受信した情報の次宛先への送信をオペレータからの指定によるメモリ受信された情報のプリント後にすることができ、ユーザが次宛先へ送

信指示を忘れてリング型同報送信ができなくなるのを防止することができる。

【 0 0 5 1 】

請求項 4 記載のファクシミリ装置及び請求項 7 記載の通信制御方法によれば、オペレータからの指定により、前記メモリ受信した情報を次宛先へ送信するか、前記メモリ受信した情報をプリントした後次宛先へ送付するかを選択するので、メモリ受信した情報の次宛先への送信を、オペレータの選択で手動とすることも自動とすることも可能になり、ファクシミリ装置の使い勝手を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

図 1 は、本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置の全体構成を示す。

【図 2】

リング型同報送信の一例におけるメモリボックスに対応したこのサブアドレス信号通信仕様の登録の一例の説明図である。

【図 3】

メモリ 1 8 のメモリ構成の説明図である。

【図 4】

本発明の第 1 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 5】

本発明の第 1 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 6】

本発明の第 1 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 7】

本発明の第 1 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 8】



本発明の第 1 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 9】

本発明の第 1 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 1 0】

本発明の第 2 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【図 1 1】

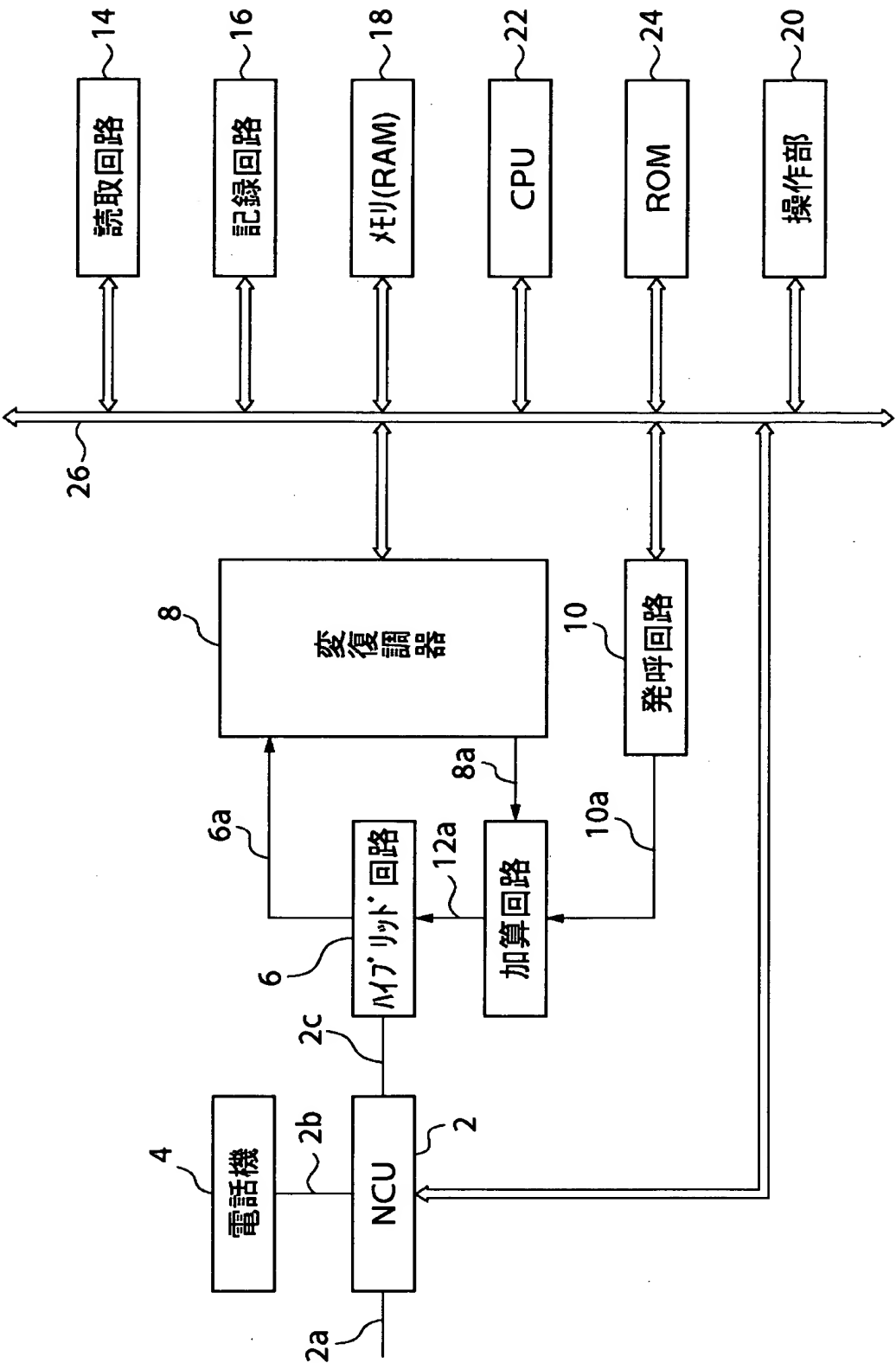
本発明の第 2 の実施の形態に係るファクシミリ装置のファクシミリ伝送制御手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

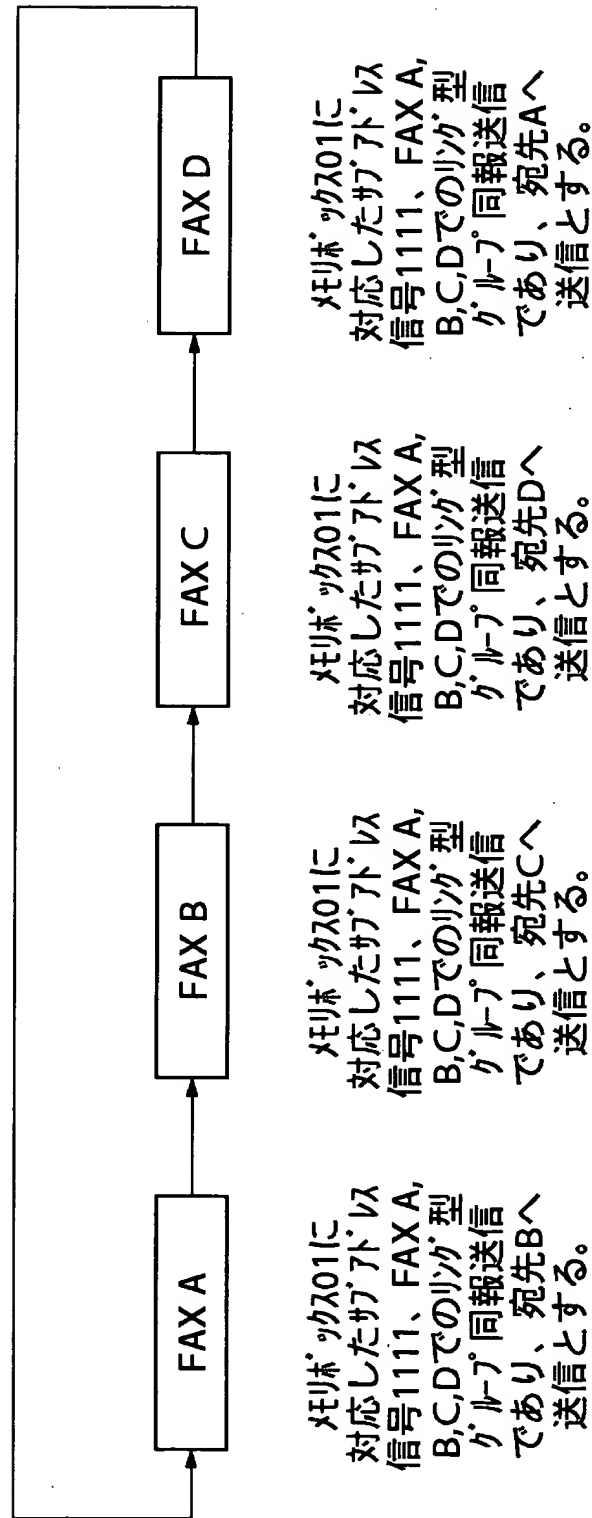
- 2 NCU 2
- 2 a 電話回線
- 4 電話機
- 6 ハイブリッド回路
- 8 変復調回路
- 1 0 発呼回路
- 1 2 加算回路
- 1 4 読取回路
- 1 6 記録回路
- 1 8 メモリ (RAM)
- 2 0 操作部
- 2 2 CPU
- 2 4 ROM
- 2 6 バス

【書類名】 図面

【図 1】



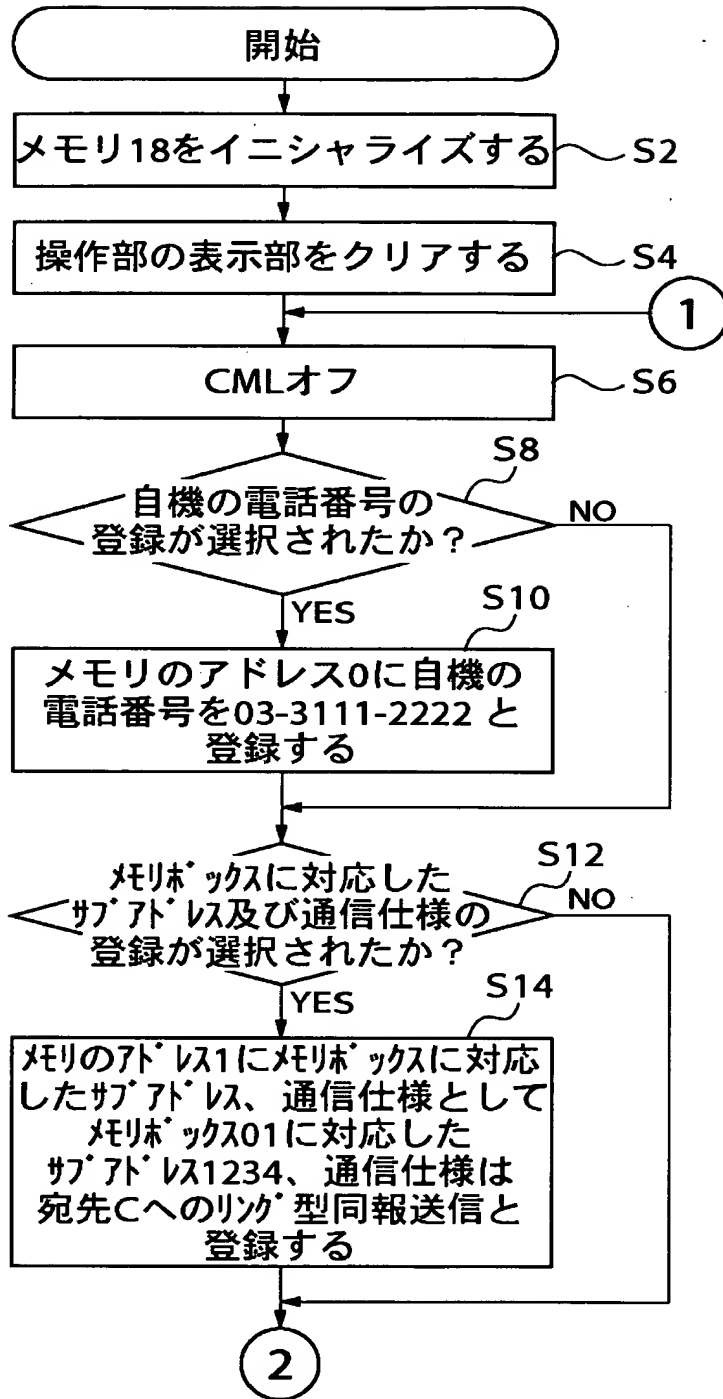
【図 2】



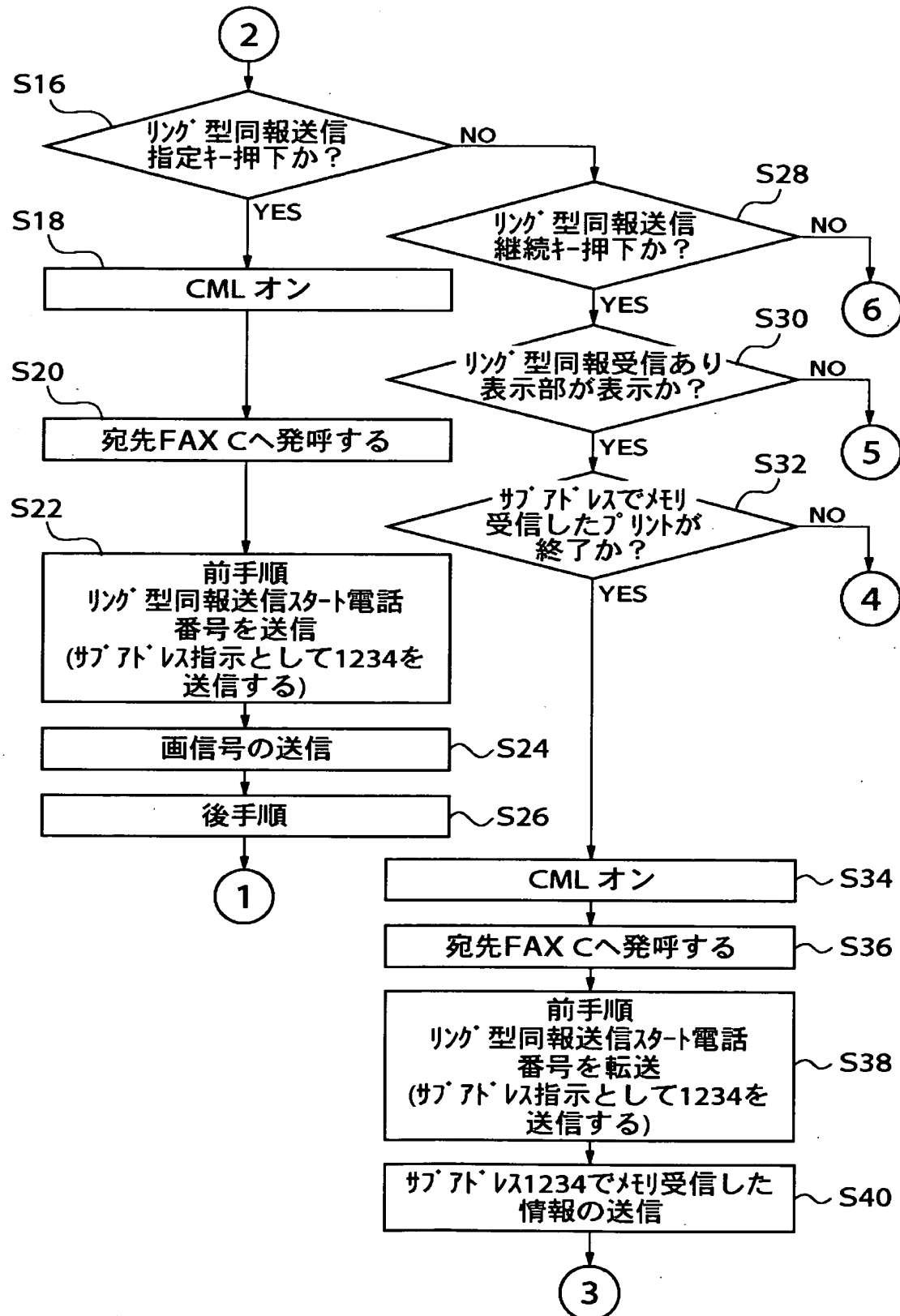
【図 3】

アドレス 0	自機のTSI登録
アドレス 1	メモリボックスに 対応したサブアドレス、 通信仕様登録
アドレス 2	次宛先へのリング型 同報送信方法登録

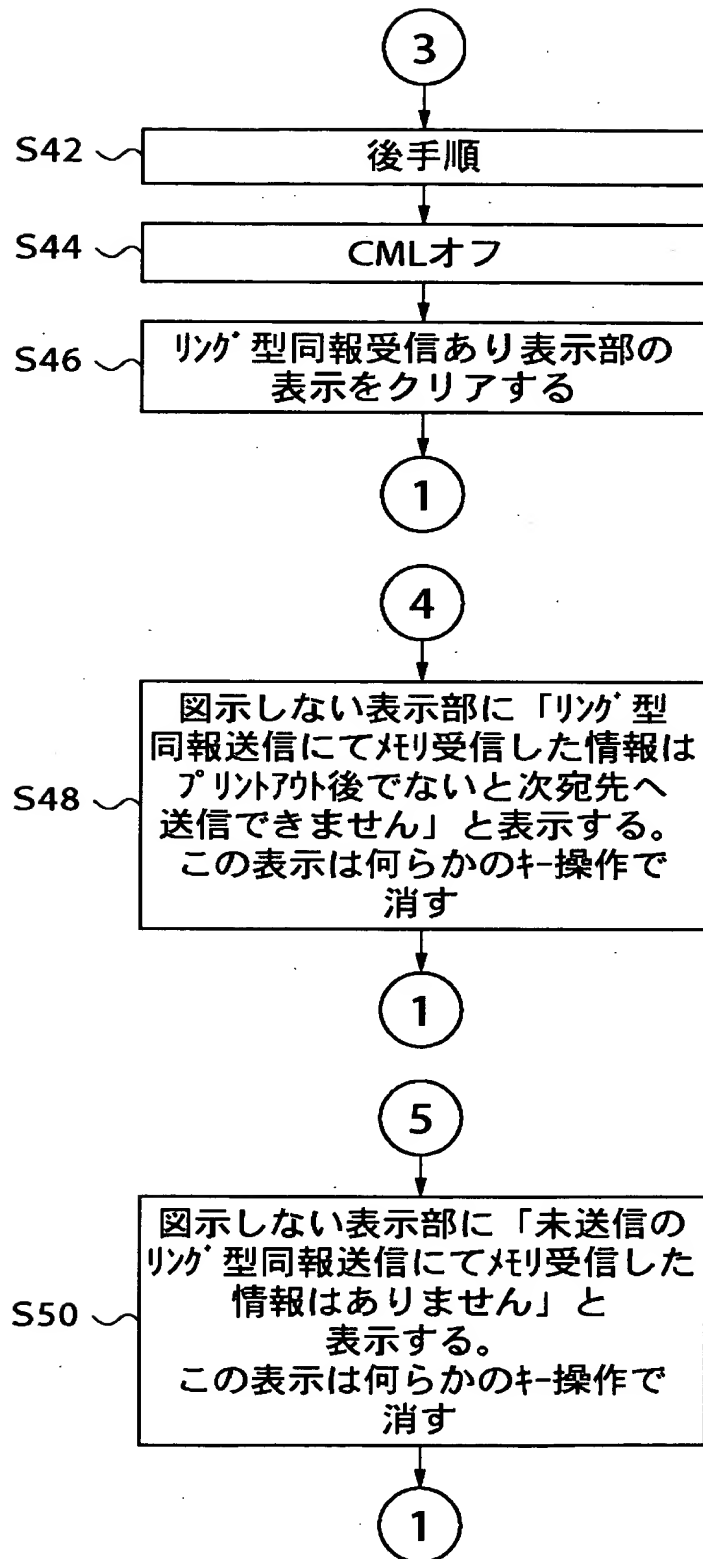
【図 4】



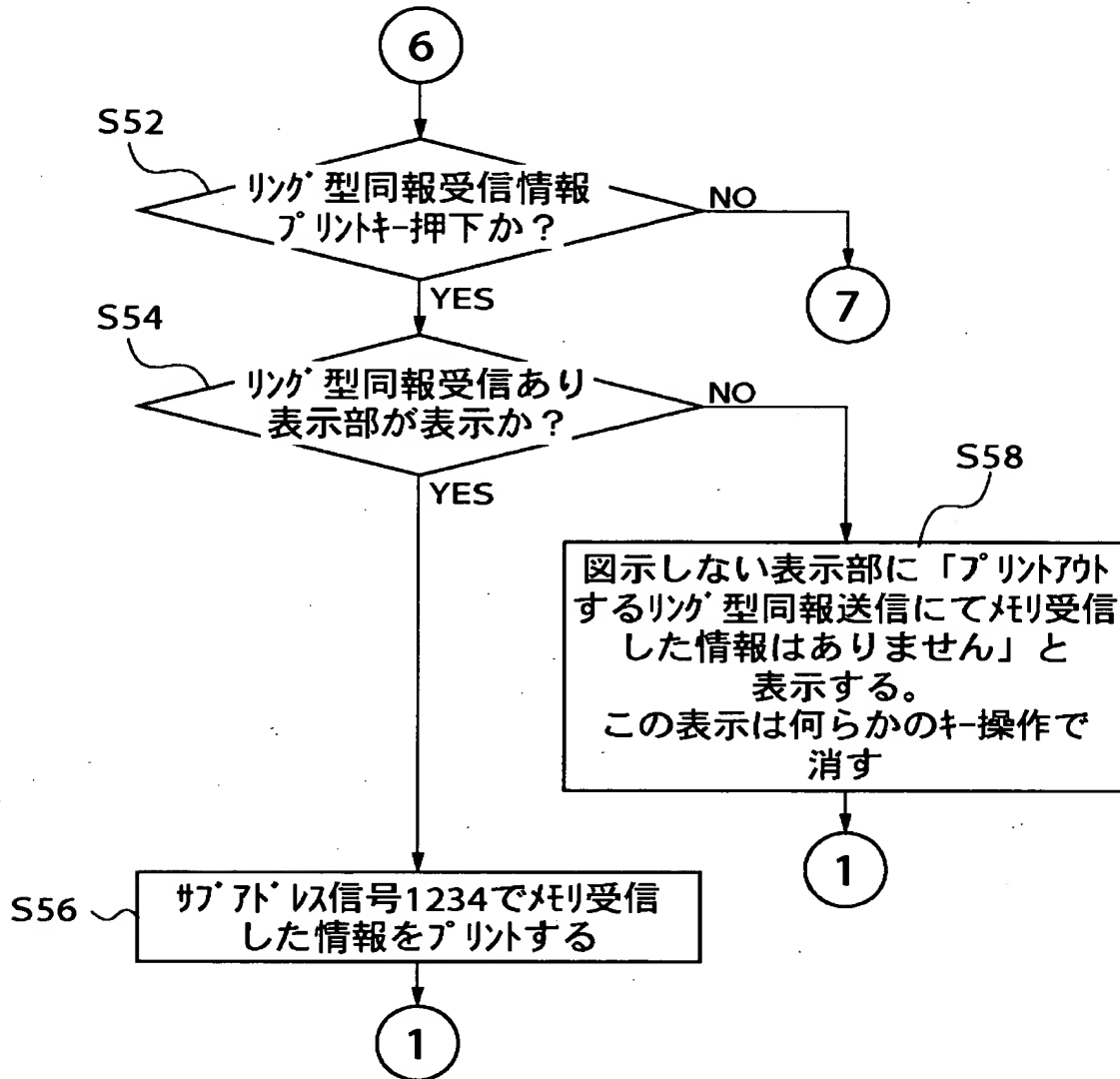
【図 5】



【図 6】

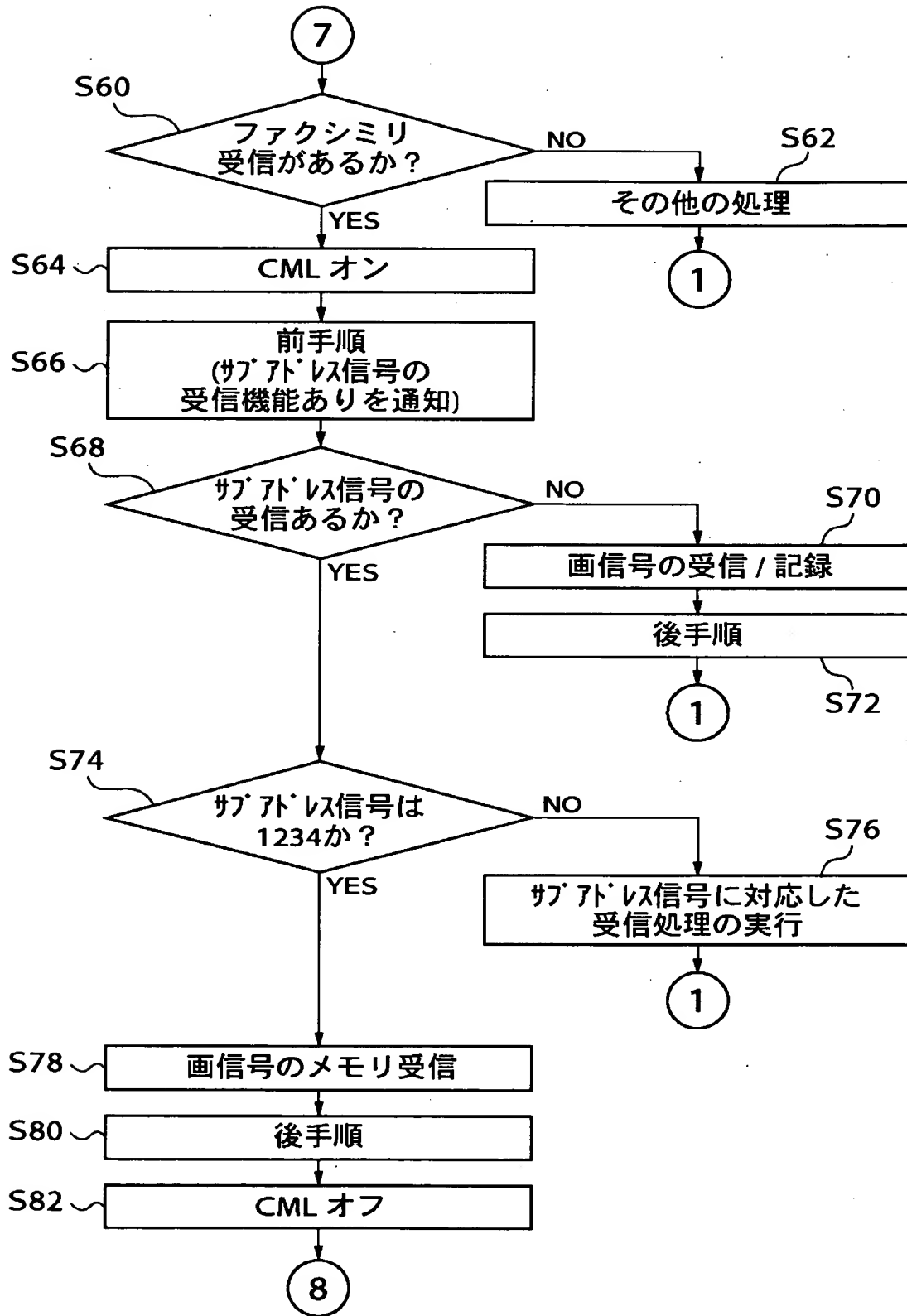


【図 7】

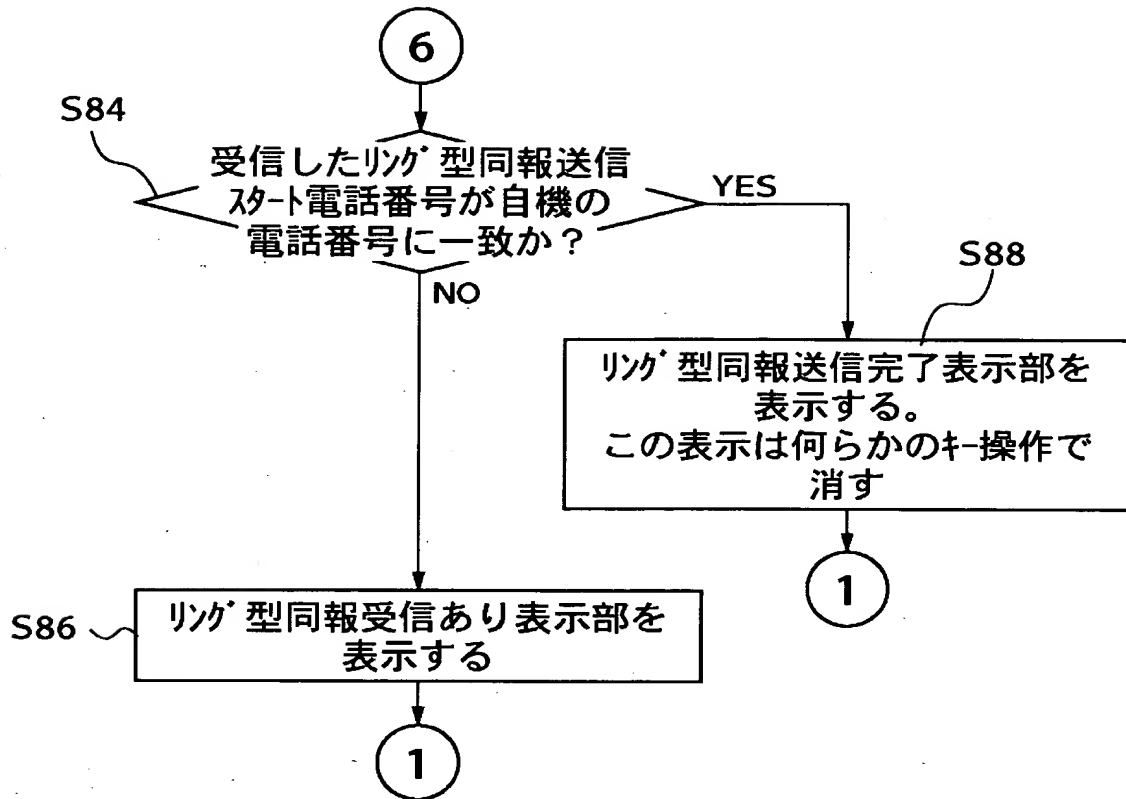




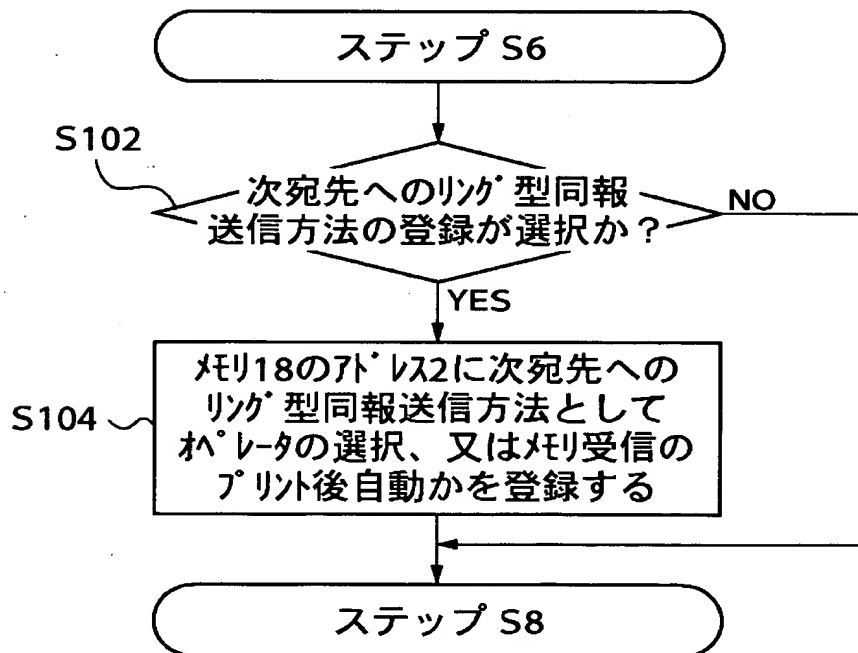
【図 8】



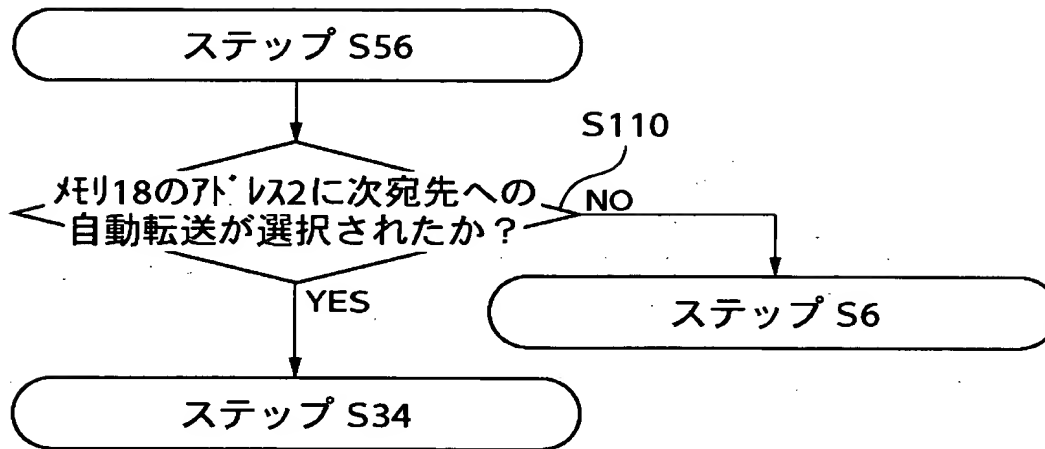
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 リング型同報送信に係る情報が送信されたファクシミリ装置のオペレータに該情報を確実に見せることができるファクシミリ装置及びファクシミリ装置の通信制御方法を提供する。

【解決手段】 サブアドレス信号によりリング型同報送信が指定されたか否かを判別し（ステップ S 6 8 及び S 7 4）、受信時にリング型同報送信が指定されたときは（ステップ S 7 4 で Y E S）、該受信した情報をメモリ受信する（ステップ S 7 8）と共に、当該メモリ受信した情報を実際にプリントした（ステップ S 3 2 で Y E S）後次宛先へ送信する（ステップ S 3 8）。

【選択図】 図 5

【書類名】 手続補正書

【整理番号】 4019005

【提出日】 平成12年 6月16日

【あて先】 特許庁長官 殿

【事件の表示】

    【出願番号】 平成11年特許願第176118号

【補正をする者】

    【識別番号】 000001007

    【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100081880

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 渡部 敏彦

    【電話番号】 03(3580)8464

【手続補正 1】

    【補正対象書類名】 明細書

    【補正対象項目名】 0 0 3 3

    【補正方法】 変更

    【補正の内容】 1

【手続補正 2】

    【補正対象書類名】 明細書

    【補正対象項目名】 0 0 3 4

    【補正方法】 変更

    【補正の内容】 2

【手続補正 3】

    【補正対象書類名】 明細書

    【補正対象項目名】 0 0 3 5

    【補正方法】 変更

    【補正の内容】 3

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書  
 【補正対象項目名】 0 0 3 6  
 【補正方法】 変更  
 【補正の内容】 4

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書  
 【補正対象項目名】 0 0 3 7  
 【補正方法】 変更  
 【補正の内容】 5

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書  
 【補正対象項目名】 0 0 3 8  
 【補正方法】 変更  
 【補正の内容】 6

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書  
 【補正対象項目名】 0 0 4 0  
 【補正方法】 変更  
 【補正の内容】 7

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書  
 【補正対象項目名】 0 0 4 1  
 【補正方法】 変更  
 【補正の内容】 8

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 図面  
 【補正対象項目名】 図 2  
 【補正方法】 変更

【補正の内容】 9

【手続補正 10】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】 10

【手続補正 11】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】 11

【プルーフの要否】 要

【0033】

ステップS16では、バス26を介して操作部20のリング型同報送信指定キーが押下されたか否かを判別する。この判別の結果、リング型同報送信指定キーが押下されたときは、バス26を介してNCU2のCMLをオンして電話回線2aをファクシミリ装置側に接続し（ステップS18）、バス26を介して発呼回路10を使用して次宛先FAXCへ発呼し（ステップS20）、前手順として、リング型同報送信スタート電話番号として、メモリ18のアドレス0に格納されている電話番号（自機の電話番号）を送信し、また、アドレス信号として1234を送信し（ステップS22）、画信号の送信を行い（ステップS24）、次いで、後手順を行った（ステップS26）後、ステップS6に戻る。



## 【0034】

ステップS16の判別の結果、リング型同報送信の指定キーが押下されていないときは、ステップS28に進み、バス26を介して操作部20のリング型同報送信継続キーが押下されたか否かを判別する。ステップS28の判別の結果、操作部20のリング型同報送信継続キーが押下されたときは、ステップS30に進み、バス26を介して操作部20のリング型同報受信あり表示部が表示されているか否かを判別する。ステップS30の判別の結果、操作部20のリング型同報受信あり表示部が表示されているときは、ステップS32に進み、サブアドレス1234で、メモリ受信した情報のプリントが終了しているか否かを判別する。ステップS32の判別の結果、メモリ受信した情報のプリントが終了しているときは、バス26を介してNCU2のCMLをオンして電話回線2aをファクシミリ装置側に接続し（ステップS34）、バス26を介して発呼回路10を使用して次宛先FAXCへ発呼し（ステップS36）、情報をメモリ受信したときに受信したリング型同報送信スタート電話番号（メモリ18のアドレス4に格納されている）を前手順にて次宛先FAXCに転送すると共に、サブアドレス信号として1234を次宛先FAXCに転送し（ステップS38）、サブアドレス1234でメモリ受信した情報を次宛先FAXCに送信し（ステップS40）、次いで、後手順を行った（ステップS42）後、バス26を介してNCU2のCMLをオフにして電話回線2aを電話機4側に接続し（ステップS44）、リング型同報受信あり表示部の表示をクリアして（ステップS46）、ステップS6に戻る。

【0035】

上記ステップS32の判別の結果、メモリ受信した情報のプリントが終了していないときは、バス26を介して図示しない表示部に「リング型同報送信にてメモリ受信した情報はプリントアウト後でないと次宛先へ送信できません」と表示して（ステップS48）、ステップS6に戻る。ステップS48における表示は何らかのキー操作で消去する。

【0036】

また、上記ステップS30の判別の結果、リング型同報受信あり表示部が表示していないときは、バス26を介して図示しない表示部に「リング型同報送信にてメモリ受信した未送信の情報はありません」と表示した（ステップS50）後、ステップS6に戻る。ステップS50における表示は何らかのキー操作で消去する。

## 【 0 0 3 7 】

ステップ S 2 8 の判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報送信継続キーが押下されていない時は、ステップ S 5 2 に進み、バス 2 6 を介して操作部 2 0 のリング型同報送信情報プリントキーが押下されたか否かを判別する。この判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報送信情報プリントキーが押下されたときは、ステップ S 5 4 に進み、バス 2 6 を介して操作部 2 0 のリング型同報受信あり表示部の表示があるか否かを判別する。この判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報受信あり表示部の表示ありのときは、サブアドレス 1 2 3 4 でメモリ受信した情報をプリントして（ステップ S 5 6）、ステップ S 6 に戻る一方、表示なしのときは、バス 2 6 を介して図示しない表示部に「リング型同報送信にてメモリ受信したプリントアウトすべき情報はありません」と表示した（ステップ S 5 8）後、ステップ S 6 に戻る。

【 0 0 3 8 】

上記ステップ S 5 2 の判別の結果、操作部 2 0 のリング型同報送信情報プリントキーが押下されないときは、ステップ S 6 0 に進み、ファクシミリ受信があるか否かを判別する。この判別の結果、ファクシミリ受信があるときは、バス 2 6 を介して N C U 2 の C M L をオンして電話回線 2 a をファクシミリ装置側に接続した（ステップ S 6 4）後、ステップ S 6 6 以降の所定の処理を実行する。一方、ファクシミリ受信がないときは、その他の処理を実行した（ステップ S 6 2）後、ステップ S 6 に戻る。

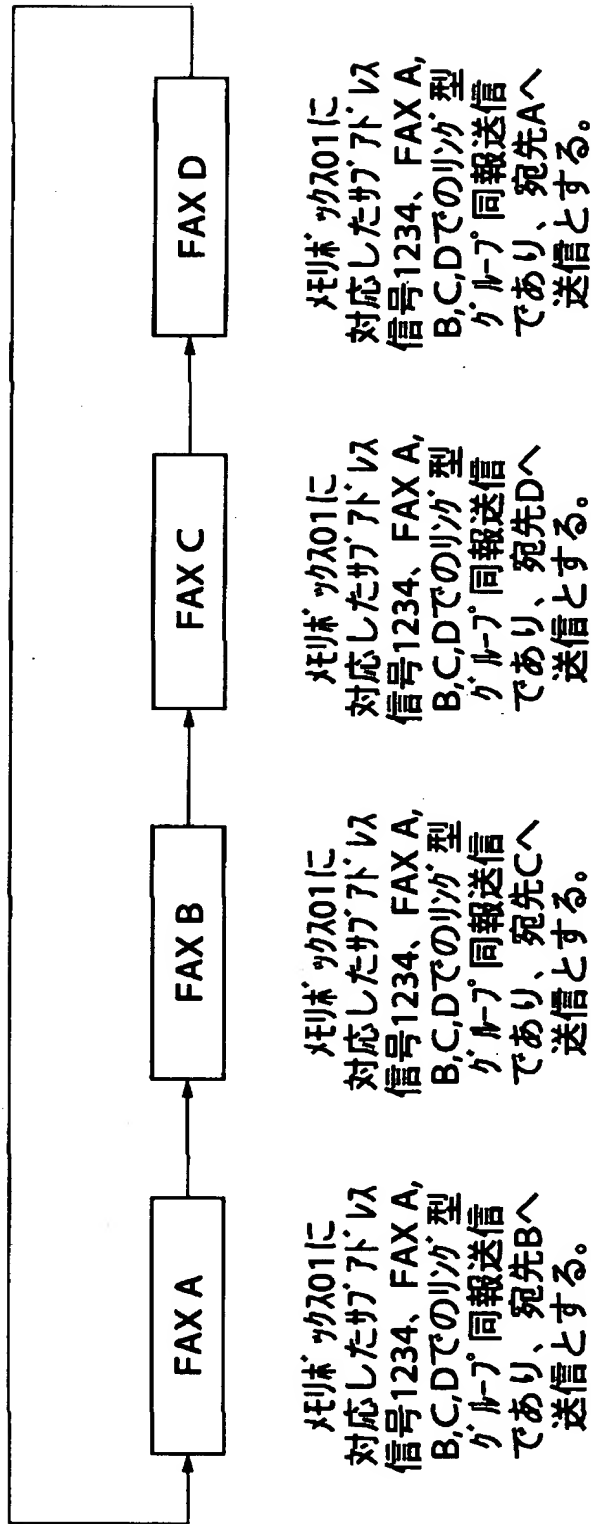
【 0 0 4 0 】

まず、前処理として、サブアドレス信号の受信機能ありをファクシミリ相手機に通知し（ステップ S 6 6）、次いで、相手機からサブアドレス信号の受信があるか否かを判別する（ステップ S 6 8）。この判別の結果、サブアドレス信号の受信がないときは、画信号の受信／記録を行い（ステップ S 7 0）、後手順を実行した（ステップ S 7 2）後、ステップ S 6に戻る。

【0041】

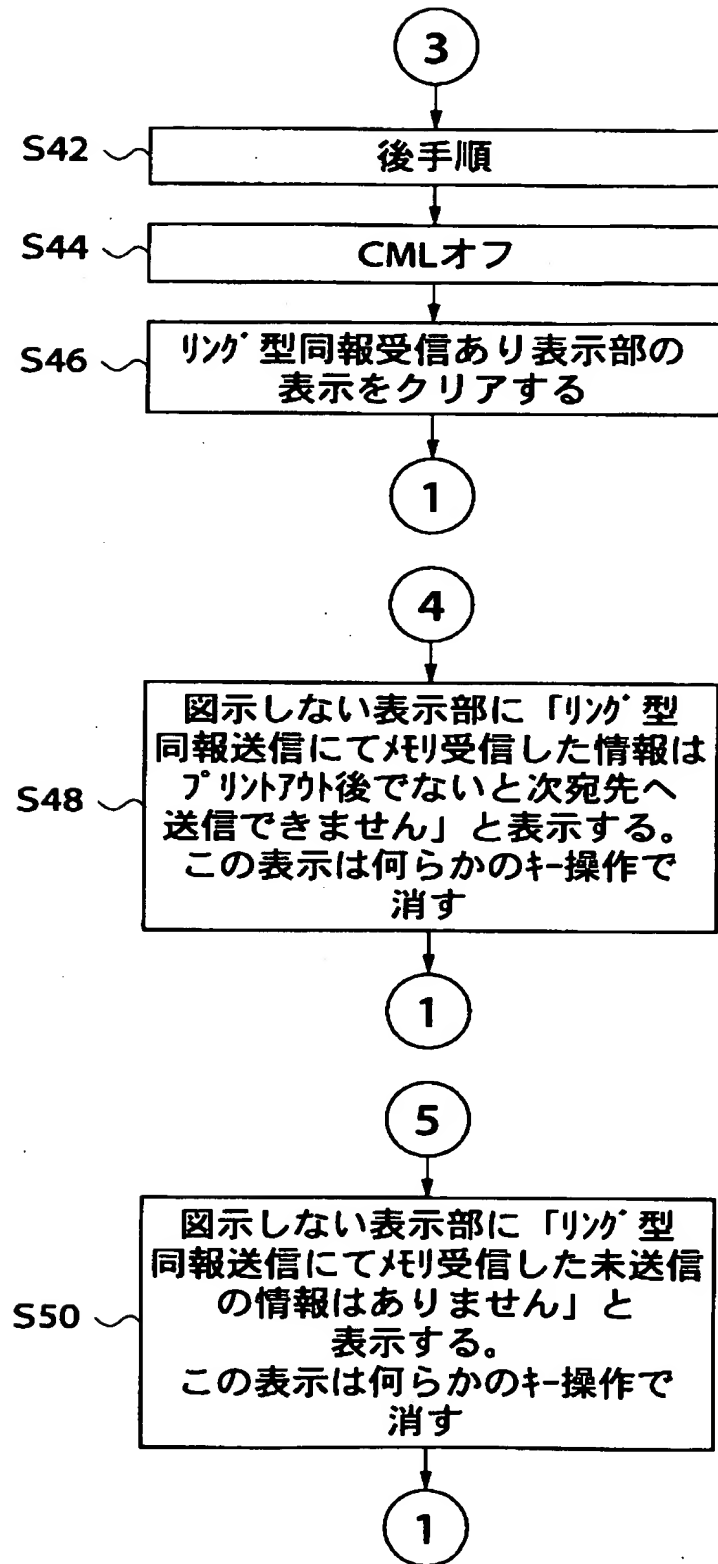
ステップS68の判別の結果、サブアドレス信号の受信があったときは、ステップS74に進み、サブアドレス信号が1234であるか否かを判別する。この判別の結果、サブアドレス信号が1234でない場合は、サブアドレス信号に対応した受信処理の実行して（ステップS76）、ステップS6に戻る一方、サブアドレス信号が1234である場合は、画信号をメモリ受信し（ステップS78）、後手順を実行した（ステップS80）後、バス26を介してNCU2のCMLをオフして電話回線2aを電話機4側に接続し（ステップS82）、今、受信したリング型同報送信スタート電話番号（手順信号で受信する）が自機の電話番号に一致するか否かを判別する（ステップS84）。

【図 2】

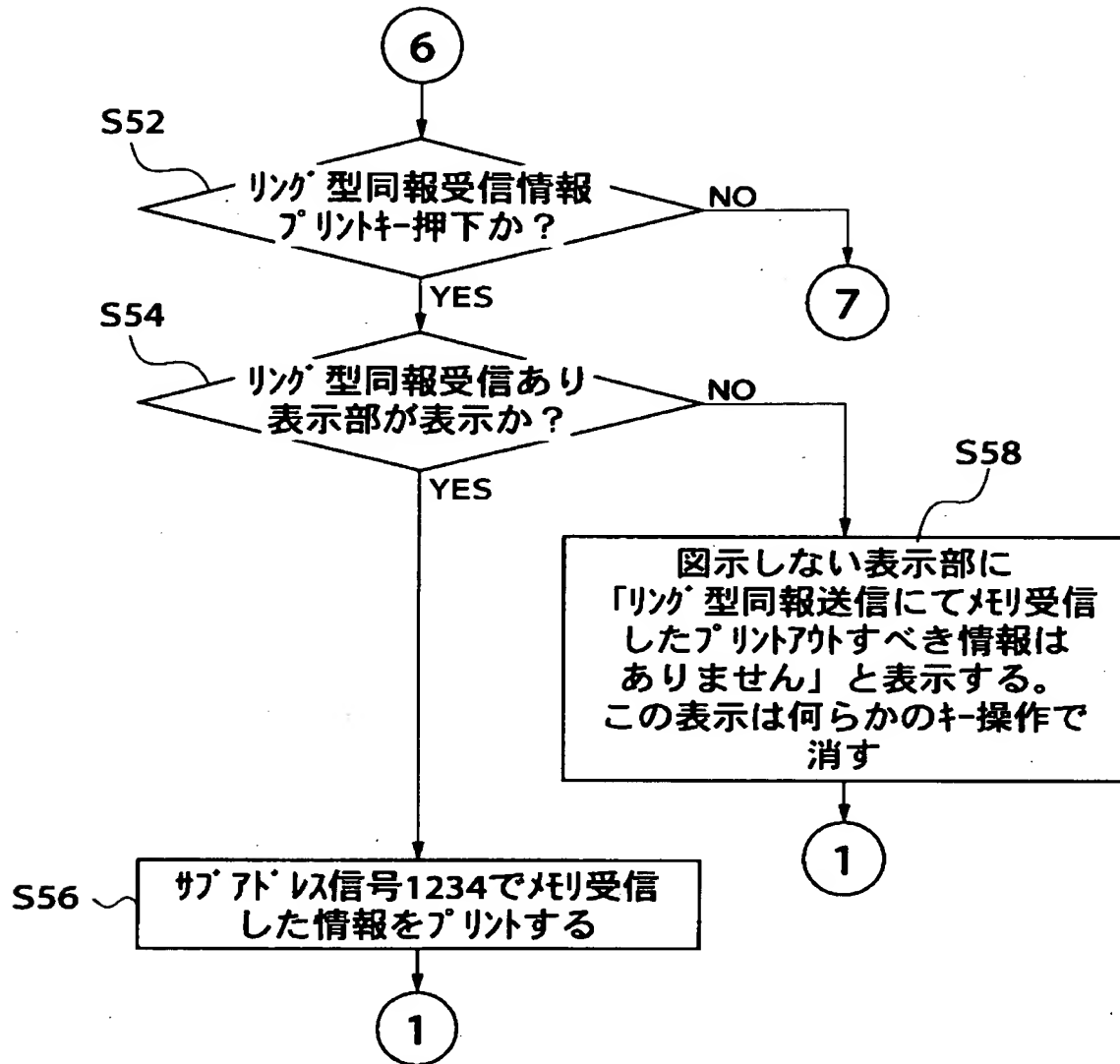




【図 6】



【図 7】



認定・付加情報

特許出願の番号	平成11年 特許願 第176118号
受付番号	50000755709
書類名	手続補正書
担当官	高田 良彦 2319
作成日	平成12年 6月27日

<認定情報・付加情報>

【補正をする者】

【識別番号】	000001007
【住所又は居所】	東京都大田区下丸子3丁目30番2号
【氏名又は名称】	キャノン株式会社

【代理人】

申請人	
【識別番号】	100081880
【住所又は居所】	東京都港区虎ノ門1丁目17番1号 虎ノ門5森ビル 渡部国際特許事務所
【氏名又は名称】	渡部 敏彦

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日	1990年 8月30日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名	キヤノン株式会社